

令和8年2月号

ノア smile



春日部セントノア病院

〒344-0001
埼玉県春日部市不動院野1112-1
TEL048-760-1200
FAX048-760-1201
<https://www.saintnoah-kasukabe.jp>



～目次～

- 病院短信 瓦井 洋
- 日常の一コマ 高井 正基
- いきいき看護・介護 大谷内 文江
- 作業療法科だより 栗田 歩
- 獅子舞・初詣 病棟デイルーム
- スタッフ紹介 大塚 洋平

2月の予定

◇誕生日会&節分

| | |
|-----------------|----------|
| 1病棟 | 2月13日(金) |
| 2病棟 | 2月10日(火) |
| 3病棟 | 2月9日(月) |
| 各病棟デイルーム 14:00～ | |



初詣 獅子舞・初詣・餅つき



スタッフ紹介

1病棟 看護師
おつか ようへい
大塚 洋平
好きな食べ物: すき焼き、
カレーライス
趣味: スポーツ観戦



2026年は冬季オリンピック、野球WBC、サッカーW杯とスポーツの国際大会が多く、スポーツ観戦が趣味の私にとって楽しみで仕方ありません。私は以前フットサルをやっていましたが、コロナをきっかけに集まることが難しくなり、体を動かすことが減ってしまいました。今年はしばらく行けていないスポーツ生観戦と運動に取り組み、心身ともに鍛えられたらと思っています。



病院短信

『認知症の専門病院として（その二）』

セントノア病院 創業者 瓦井 洋

前回は私が今から三十五年ほど前に、千葉の病院で初めて認知症の患者さんに会った日の話をしました。結局その患者さんを始め、四人ほど入院していた認知症の患者さんたちは、全て退院させられて、現在でもその病院は認知症患者の受け入れはしていないという話でした。確かに高齢者専用の病棟とはいえ、認知症患者さんと一般の患者さんとの「異越同舟」には、やはり無理があるのも事実です。だからと言って、認知症の患者さんたちを全て拒否してしまうというのはどうなのでしょうね。ここでも病院側の傲慢さが鼻に付きます。

さて、千葉の病院に対してのモヤモヤはともかく、次に頼まれて赴任した神奈川の病院では、行ってみたら倒産寸前で、私を呼んだのは再建のためではなく、どうも倒産の後始末をする人間が欲しかったようなのです。だからと言ってこのまま倒産という事になれば、入院している百五十人を超える患者さん達はそれこそ「野ざらし」になってしまいます。それを避けるには、早急に患者さん達を他の病院へ転院させなければなりません。実はこれがまた大変なのです。多分、行政だけで百五十人からの入院患者さんを他の病院へ転院させるなんて、数か月掛かってもとても出来るとは思えません。また、もしそんな事になればご家族たちも黙ってはいないでしょうし、世間も大変な騒ぎになるでしょうね。実際にあるテレビ局が私のもとへ取材をさせてほしい、と言って来たほどですから。もちろん取材は拒否しましたけどね。とにかく入院患者さんを「野ざらし」にしてしまうなんて、この医療業界に携わる者として絶対に許されることではありません。何か策はないのだろうか。私はあらゆる可能性を考えながら、ある一つの結論を胸に秘めて行

政庁に向かいました。そしてその行政庁の担当者に会わせて頂き、胸に秘めた一つのやり方を伝えました。そしてこのやり方以外に入院患者さんを救う方法はないし、もしこのやり方に許可を頂けないのなら、私はこの病院から手を引きます。とごく穏やかに？談判をしました。もしかしたらこの私の談判は、半分脅しに聞こえたかもしれせんね。

その脅しに聞こえたかもしれないやり方とは、この病院の「廃院届け」を出すと同じ日に、新しい経営者のもとで、新規の「開院届け」を同時に出して開院の許可を出して頂くという、おそらく前代未聞のかんりの荒技を使うことでした。このやり方の是非はともかく、その時の私には、何があっても患者さんを「野ざらし」にしてはならない、という強い信念がありましたからね。その強引な奇策、荒業の結果は、百五十余名の患者さん達を「野ざらし」にすることもなく、医者やスタッフ達もほぼ全員が残ってくれて、患者さんたちも今まで通りに入院生活を続ける事が出来るようになりました。もちろん医療も看護介護も当然、今までと変わりなく受けられることになったのです。その後はその病院の運営も軌道に乗って、私の仕事は2年ほどで終わったのですが、やっぱり私の心の中には、あの千葉の認知症患者を全員退院させてしまった某病院のモヤモヤが少なからず残っていて、私に泣いて土下座をしたご家族の事がどうしても頭から離れなかったのです。（続く）



日常の一コマ

今回は2病棟の喜昭さん（85歳）を紹介します。

東京都目黒区に4人兄弟の第2子長男として生まれた喜昭さん。

1964年の東京オリンピック開催に向けての道路拡張工事に伴い川崎市に転居され、大学卒業後は某有名企業にて半導体の研究者として勤務。65歳の定年を迎えるまで宇宙ステーションに関わる仕事をしていたそうです。

30歳頃結婚し2人の娘さんに恵まれ、退職後は奥様と仲良く趣味のテニスを楽しんだり、認知症で施設に入所されていたお母さまの面会によく出かけられていたそうです。時折大好きなお酒を朝から飲むこともあったようですが、70歳頃から身体の不調を訴えるようになり、テニスやカメラ、得意だったパソコンといった趣味全般から遠ざかるようになりました。もちろんお酒を飲む機会もめっきり減ってしまったそうです。何度も同じことを言うような物忘れもみられたため、いくつかの病院を受診するとアルツハイマー型認知症・正常圧水頭症と診断され、利用していたデイサービスやショートステイでも利用困難となり、当院への入院となりました。

入院当初、歩行は安定しており、食事も自力で召し上がる等ADL（日常生活動作：食事、移動、着替え等生活に最低限必要な基本動作）は良好で、歌がとにかく上手でよい声をしていらっしゃるの、レクリエーションの時はいつも聞き入ってしまいました。しかしその歌声が大き過ぎたり、本人に悪気はありませんが他者に触れようとする行為があり、トラブルになることもありました。そんな時喜昭さんを落ち着かせようと飲み物を持っていくのですが、決まって言ってくれる言葉があります。

ダンケシェーン Danke schön（ドイツ語で「どうもありがとう」の意味）。そしてこちらが何か作業している時も「大丈夫？頑張ってよ」と優しく声をかけてくれます。入院から4年以上経ち今は車イスを使用されていますが、元気な歌声と紳士的な声掛けは変わりません。

これからも喜昭さんが楽しく歌えて、ダンケシェーンをたくさん言ってもらえるような病棟であり続けられるよう、お手伝いさせていただきたいと思えます。

2病棟 介護福祉士 高井 正基

作業療法科 だより

作業療法士 栗田 歩

週に一度、アクティビティの会を行っています。アクティビティとは活動を意味し、とても幅広い意味をもちます。その名の通り、『やってみたいことを何でもやってみましょう！』という会です。ただ、患者さん側からやりたいことを具体的に発信される事は少ないため、生活歴や会話の中からその方が興味を持って出来そうなことを見つけ提案しています。

今は、大人の塗り絵・数独・クロスワード・書道を行っています。塗り絵では、様々な題材の塗り絵の中から「これ素敵！」「細かくて難しそうだけど…やってみようかな」と患者さん自身で悩みながら選び出し取り組まれます。僅かなはみ出しも許さないという意気込みで几帳面に取り組む方・たくさんの色を重ね試行錯誤される方など、皆さんとても個性豊かで素敵な作品を仕上げて下さっています。数独を行う方は、以前趣味として行っていたけれども「最近解けなくなっちゃって…」と話されていました。そこで大きく見やすくし難易度をやさしくすることで「あら！出来たよ！」と自信を持たれた様子で、毎週新たな数独に挑んでいます。活動中は皆さん真剣な面持ちで黙々と取り組まれます。仕上がりを見て「なかなか素敵に出来たんじゃない」と自身の作品に満足されたり、時には「ここがちょっと納得いかなかったなあ」と少し悔しがり反省を口にする方も。デイルームの壁には、そんな皆さんの素敵な作品が飾られています。



いきいき看護・介護

2病棟 看護師 大谷内 文江

深呼吸には驚くべき「健康増進効果」があるそうです。

当院では、患者さんと職員は毎朝ラジオ体操で深呼吸を行っています。今回はこの深呼吸についてまとめてみました。

「深呼吸は吐く」事から始めるのが良いそうです。ゆっくり息をお腹の底から、汚れた空気を押し出すイメージで吐き出し、次に鼻からゆっくり新鮮な空気を吸い込みます。これを繰り返すのが効果的な深呼吸と言われています。

効果とは

- ①体が活性化して元気になる
- ②リラクゼーション効果
- ③睡眠の質がアップ
- ④喉が乾燥する時期は痰を切る効果も期待できます

当たり前のようにしている息も深呼吸を意識して行うだけで体に良い効果があります。皆さんも良い呼吸をしてみてください。

